

弓道同好会

沿 革

幕別弓道同好会は、幕別町体育連盟に単位団体として加盟したのが、昭和51年4月であるから歴史は浅い。しかし、幕別町における弓道の歴史は可成り古くから愛好の方々があり、種々活動を続けておられたそうである。

そもそも、明治・大正時代においては、各町村毎の団体組織はなかったようで、十勝では、帯広地区に弓道場があり、又指導者も専ら帯広を中心に在住し、各種大会が開催されたそうである。

その頃、幕別の弓道愛好者は、かつて市街の中心が猿別地区にあった頃、猿別の金比羅神社境内に稽古場を設け、また祭典納会も常に開催されたそうである。

明治38年に鉄道が開通し、止若駅が開設され、幕別の市街地も現在の様相を呈してきたそうである。従って弓道の愛好者も、現在の幕別神社の境内に稽古場を設け、十勝管内の同好者の参加を得て幕別神社の祭典奉納射会等を開催し盛会だったそうである。

昭和20年、太平洋戦争の終結とともに、連合軍指令に基づき、日本武道の禁止により、弓道もその選にもれず衰微し、幕別神社祭典奉納射会が行なわれた場所も、今は止若公園となっている。

終戦とともに、解散した武道国体も逐次復活し、昭和22年春、中央においては全日本弓道連盟が結成され、十勝においても昭和27年4月10日、十勝地区弓道連盟(初代会長 林 善威氏)が発足した。しかし幕別町は、戦前、弓を引かれた方々は、今は既に故人となられ、現在は尋ねるすべもない状態である。



幕別神社奉納射会が開催された場所
と言われる現在の止若公園

現 況

幕別町の人口も、今や2万人になろうとしている。特に、札内地区は帯広市のベッドタウンとして栄え、本町地区を凌ぐ人口の増加である。それに伴い、スポーツ人口も増え、益々活発化してきたが、このなかにあつて弓道は、鈴木政一(当時帯広第一中学校)が札内春日団地開設と同時に帯広市内から転入、また池畠多加一郎(帯広営林局)が、昭和45年秋、帯広市から札内地区に転居、僅か2名ながらお互に励し合い、帯広弓道場に通い、修練に励んでいた。

昭和49年に、阿部寛司(札内郵便局)が、足寄町から札内地区に転入し漸やくにして弓道競技の最少基準団体として参加できるようになった。しかし、幕別町としての単位団体の組織は、練習施設がないので、専ら帯広弓道協会の会員として負担金を納め、稽古に励み、各種大会におよび講習会等に参加した。そして、十勝管内で開催される市町村対抗弓道大会にのみ、帯広協会の会員でありながらも、幕別チームを編成して参加したのである。

特に、道民スポーツ夏期大会には昭和50年度第7回大会にはじめて幕別町とし参加したのである。明けて昭和51年には、加藤哲夫（東京火災海上保険帯広支社）が、幕別南町に転入、この頃漸やくにして形も整ったことから規約を制定し、幕別弓道同好会を結成し幕別体育連盟に単位団体として加盟したところである。しかしながら弓道は、常に稽古に励み、心身を鍛錬しなければならない。従って、なおも帯広弓道協会に籍を置き、帯広市緑ヶ丘の弓道場に通い、修練に励んでいるところである。

現在の活動状況

① 各種競技大会

幕別弓道同好会の会員は、個人として全道大会・東北道大会・全十勝大会等に参加し、数々の入賞記録はあるが、団体としての参加は、全十勝市町村対抗射会・道民スポーツ夏期大会である。そのうち入賞記録は次のとおりである。

昭和51年8月1日 第9回道民スポーツ十勝夏期大会 遠的の部 2位。 昭和52年8月21日 第23回全十勝弓道選手権大会 団体優勝。 昭和53年7月31日 第10回道民スポーツ十勝夏期大会 近的の部 優勝 団体総合2位。



第9回道民スポーツ十勝夏期大会 遠的の部で2位の幕別チーム



第10回道民スポーツ十勝夏期大会 近的の部で2位の幕別チーム

② 弓道の修練と指導

スポーツの殆んどが動的であるのに対し、弓道は、きわめて静的であり、いわゆる、静中に動を求める運動である。従って、厳しい自己統制と情緒の安定が要求される。元来、弓矢は、原始的な単純かつ素朴な用具で、これを操作して固定された的を射るのであるから、わずかの動揺があっては、目的を達することはできない。いわゆる不動的に向かうのであるから、不中の場合、欠陥があるとすれば常に自己にある。的に心をとられてはならないのである。

また射は、仁なりといい、常に礼に即した射でなければならない。従ってわれわれは、正しい道を修めるため、また会員に対する指導のためにも自ら修練しなければならない。

全日本弓道連盟では、毎年各地区の指導的立場にある称号受有者を集め、講習会を実施している。昭和53年度は、帯広市において北・北海道地区の指導者講習会を実施した。この講習会には幕別弓道同好会からは、池島会長が受講した。



真駒に講堂の敷居に集まる受講生 帯広市弓道場において

③ 弓道の段級審査

弓道は、正しい弓射の指導と普及を目的として、毎年弓道の段級審査が実施されるが、特に中央審査は全日本弓道連盟の審査委員が中央から出張して来られ、指導の、修練の適否を審査する。また、これを基礎として指導者は正しい指導と普及に務め或いは会員の審査に当たっている。

④ 幕別弓道同好会の役員

事務局

幕別町札内若草町 538 - 3

池島多加一郎 宅 電話 札内 2516

役員

会長 池島多加一郎 札内若草町 538 - 3



昭和54年 中央審査を受ける高段者の部 苫小牧市において

理事長 加藤 哲夫 南町 2 - 29
 理事 阿部 寛司 札内あかしや町 43
 坂本 龍也 札内文京町 33 - 71
 監事 鈴木 政一 札内泉町 79 - 32



幕別弓道同好会役員

展 望

日本武道は、礼に始まり礼に終る、と云われるが、特に弓道にあっては、「射は進退周還必ず礼に中り、内志正しく、外体直くして、然る後に弓矢を持つこと審固なり」と云われ、起居進退、すべて礼に即さなければならない。また弓射は、小笠流を中心として、いろいろなまつりごとに用いられ、最近われわれの身近なところでは帯広神社の新殿改築に伴う上棟式に、帯広市 野水司氏と池畠会長とがこの任に当り、鳴弦の式を奉じたところである。



東北海道弓道選手権大会
矢渡式 帯広市弓道場

現在、町内には弓道の練習施設がなく、専ら帯広市の弓道場を利用しているが、将来は町当局の理解を得て、幕別本町と札内地区に道場を設け、われわれの修練の場とし、また弓道教室を企画して弓道の普及に務めるとともに、各種大会等も開催したい。これによって、益々弓道の普及と発展につながるものと思う。



帯広神社改築上棟式において



幕別弓道同好会会長